

脳の働きをわかりやすく

東大准教授が科学絵本

シリーズ第1巻は「言葉」テーマ

東大准教授による科学絵本「脳でわかるサイエンス」1 ことばの冒険」が先月出版された。シリーズは全3巻で、脳の働きをわかりやすく描く。

作者の酒井邦嘉さんは、言語脳科学が専門。脳科学

に関する著書は数多くあるが、絵本に取り組んだのは初めてだ。「目に見えないものを頭で描いて説明する科学的な想像力や、納得できるともに与えたい」と、絵本に込めた願いを語る。

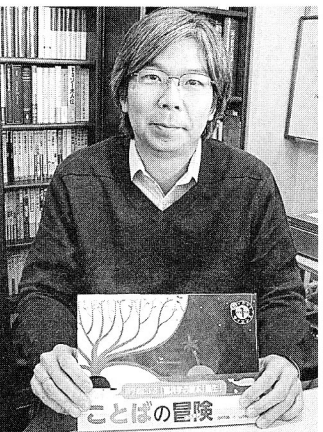
日々接する学

生の中には、深く考えず要領よく結果を出そうとする人もいるという。酒井さんは「本を読み自分の言葉で理解することの大切さを、幼い子

にこそ伝える必要がある」と感じた。

シリーズ第1巻のテーマは言葉だ。だれもが生まれつき持っている言葉を作り出す力を、絵本では、脳の中の「ことばの木」と表した。ことばの木は、伝えたいことを太い幹ですくい上げ、多くの枝を通して言葉で表す。木は経験によって育ち方が異なり、自分らしさや個性が生まれるという。

「不確かな情報があふれている今だからこそ、科学的な視点で考え想像する力を養ってほしい」と酒井さん。次作以降は「心」「脳」(絵、山田和明、明治書院、1575円)



脳科学の絵本「ことばの冒険」の作者で
東大准教授の酒井邦嘉さん